

平成 30 年 5 月 14 日現在

機関番号：37123

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02671

研究課題名(和文) 日本語教育の知見を生かした、看護現職者の発信技能向上支援方法の開発

研究課題名(英文) Development of methods to assist nurses' improvement on writing skills based on findings and experiences in Japanese Language Education

研究代表者

因 京子 (Chinami, Kyoko)

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60217239

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：看護師は、業務の中で多様な文章を作成しなければならず、近年は、学術的記述の必要も高まっているが、現職者の多くが教育の中で文章作成訓練を受けておらず、発達技能向上のための支援を必要としている。本研究は、主に中堅以上の現職者が、学術的・実務的文章の「スキーマ」(目的の認識とそれに合致した文章が取るべき構造と表現の条件についての概念の総体)を自らが形成し精緻化しつつ、同時に、他者(主に後輩)の文章執筆技能向上を支援することも可能にする学習技能を向上させることを支援するために、現実的な研修方法を考案し、看護師が実際に作成した文章を素材として教材を開発した。

研究成果の概要(英文)：Nurses are required to produce a variety of documents as part of their expertise, and recently they have an increasing number of opportunities to write reports of academic nature. However, many of them had no specific training on writing during their nursing education, so they are in great need of assistance for improving their writing skills.

This project aimed at developing workable methods to assist nurses' improvement on writing skills as well as their skills in mutual critique and facilitation. In order to promote the formation of "schema (understanding of possible product as required from general and specific purposes)" of academic/professional writing, we compiled a workbook based on actual production by nurses, and published several papers in print and as oral presentation to report on observed problems and efforts toward possible solutions to them.

研究分野：日本語教育

キーワード：現職看護師 ライティング スキーマ 学習技能 意識化 メタ認知 教育場と職業場

1. 研究開始当初の背景

看護界は近年、大きな変化を経験した。1991年には全国で11だった看護学部が急増し、2015年には200を超えた。種々の専門的知識・技能の基礎に「学士力」を養成することが求められる今日の大学教育では、「発信」する技能、特に、論理的思考の手段およびその結果を広く他者と共有する手段として、「書く」という技能の養成が重要となっている。個々人それぞれの個別性に最大限対応することと全体的な妥当性と適切性の確保の両方が等しく求められる看護という専門職者の教育においては、「書く」という技能を中心とする発信能力がとりわけ重要であることは、言を俟たない。

看護実践の場でも、直面している状況や行なった活動について医療関係者間で、また、医療界の外の人々に、情報を明確に伝え、かつ、自分の見解を発信することが強く求められるようになってきた。中堅以上の看護師の多くは、自分自身は書くことについて特段の訓練を教育段階で受けた経験を持たないにもかかわらず、自分の発信技能の向上だけでなく、後輩のそれを支援する必要にも迫られており、大きな困難を感じていた。看護の現職者に対する支援方法の開発は進んでいるとはいえ、彼らの必要に応える技能の訓練方法を開発することは、喫緊の課題の一つとなっていた。

日本語教育の分野には、中等教育（高校）までに自己の見解を責任をもって発信する活動についての訓練や経験をあまり持たない留学生や彼らと共通する問題を持つ日本人学生に、現存する状況の観察から問題と課題の発見、その解決の考案と表現までの努力を行う手段および成果発表の手段としての「アカデミック・ライティング」の技能を支援してきた蓄積がある。筆者らは、大学院レベルの留学生の日本語教育および修士論文や博士論文の作成を含む専門教育に携わる一方、さまざまな専攻の大学院レベルの学習者を対象に、メタ認知の精緻化とスキーマ形成への支援を主軸とする教材¹を開発した実績を持つ。これまでの研究と教育および教材開発から得た知見に基づいて看護専門職の発信技能を支援する方法を開発することができると考えられた。

2. 研究の目的

研究の目的は、現職看護師の「書くこと」を中心とする発信技能の向上を支援する研修カリキュラム（教材と活動方法）を開発することであった。そのために、現職者たちが必要と見なし、かつ、困難を感じている文章のジャンルを特定し、学習技能における問題点（ニーズ）を認識し、研修や実習の素材として用いることができる教材とそれを用いて実施するコースのデザインを開発することを目指した。

3. 研究の方法

現職者の執筆活動の実態に関しては、「聞き取り調査」と「調査紙法調査」を行った。文章執筆活動に関する認識は、主に「聞き取り調査」を通して行なったが、特に、学習についてのメタ認知、すなわち、書くことを学ぶ目的をどう捉え、その意義をどう理解し、必要とされる下位技能やリソース、発達経過についてどのように想定しているかを調査した。

支援活動のリソースとなる教材は、大規模病院の管理職に就いていて研究協力者となることを同意してくれたベテラン看護師とその同僚・部下、研究期間以前から継続して実施している研修の参加者などから同意を得て提供を受けた文章を基に、発信の目的の明確な認識とリバースのための方針設定、および、具体的手順の明確な認識の形成を目的とするタスクを作成し、研修実践における試行とその後の検討を経て必要な修正を施し、完成させた。並行して、書記言語についての基礎知識と、定義的記述や意義と明示としての要約などを含む実務的・専門的文章作成に求められる技能の向上のための習を提供するタスクを開発した。それらをまとめて、最終年度に、素材の文章、それに基づくタスク、主要な留意点についての解説から成る、ワークブックを作成した。

直接的に支援者としての立場から支援を提供する可能性が包含された研修活動のコース・デザインについては、研修を実施する機会が得られた場合にその機会を利用して、費やせる回数と時間数に応じた活動方法を考案して研修を実施し、実施条件に関わらず行なうことが必要と思われる活動と、選択的応用的に行なうことができると考えられる活動とを認識し、断続的実施の場合と集中型実施の場合のデザインを行った。

4. 研究成果

本研究の知見および具体的成果物は、以下である。

(1) 現職看護職者が業務およびその発展のために書く文章の目的および種類が多岐に亘ることが確認された：福岡県内の複数の病院および徳島県・熊本県・兵庫県の赤十字関連の病院で行なった調査、および、6度ほど実施の機会が得られた研修の場で行なった調査の結果、看護師が執筆する可能性のある文章のジャンルが認識された。その中には、ある程度定が存在する業務上の連絡・報告などの文章だけでなく、医療関係の多職種を集団を読者と想定する文章、一般人に向けた広報的文章、行政や顧客などのステーク・ホルダーに向けた文章まで、想定される読者、感性的表現が許容ないし要請される程度、学術的文章語の使用が求められる程度などの点において大きく異なる文章が含まれていることが確認された。多様な文章を作成する技能を獲得するには、何かの手本（モデル）

を応用的に模倣し踏襲するという学習方法は寄与し難いと考えられ、発信の目標を明確に認識することから始めて、多様な文体の存在と実態についての知識とそこから選択する技能、発信の目的が含まれる情報や発信の文体や具体的表現に与える影響を明確に認識する技能を獲得することが必須であり、そのための支援が必要であることが判明した。モデルを提供して「やりやすさ」を強調して学習意欲を刺激しようとしても、実質的向上にはつながりにくいと思われた。

(2) 現職看護職者の発信技能向上のためには、新たな学習技能の獲得が必須であることが確認された：現職者は、具体的事例や優れた技能を持つ先達の実践の観察と応用的模倣によって迅速に技能を獲得し発揮してきた経験がある。そのため、文章や発表の作成にはそうした学習方法とは異なる学習手順や作業が求められるという認識や、文章作成のスキルが獲得され向上していく過程についての想定が、十分でない場合がある。学習についてのメタ認知の形成および精緻化を目標とする支援が極めて重要であると考えられた。

特に興味深いと思われたことは、看護師による文章では、看護業界で共有されているスローガンの文言や看護の大家と見なされている人物や業績への言及が頻繁に行なわれ、非常に高く評価されていることである。これが内向きの発信を前提とした現象であることへの意識化はとりわけ重要と考えられた。

(3) 現職者が実際に頻繁に行なう発信活動の観察に基づいて、複数のジャンルの文章を素材とするワークブック『看護師のためのライティング練習』²が作成された：この教材は5章からなる。

第一章の素材は看護師および多職種の医療関係者間で実務実践の向上のために共有される実践報告である。実践報告は様々な形で頻繁に行なわれており、看護師の生産物の代表の一つであるが、執筆され共有される目的は場合によって異なる。しかしこの点についての認識が乏しく、記憶の中に形成されている共通したモデルに基づいてよく耳にする表現を用いて作成される傾向が見られた。そこで、タスクは、目的認識を促す活動を中心に組み立てられた。

第二章の素材は看護実務の一部として書かれる報告や伝達および記録である。自分が受け取った伝達や公知等のおぼろげな記憶に基づいて、発信者と想定される受信者との関係や伝達の目的を考慮せずに発信することの不適切な認識を促すタスクが中心となっている。

第三章の素材は、医療者ではない患者やその家族、行政や協力団体の構成員など幅広い読者を想定した、広報等の目的を持つ文章である。目的認識と読者の想定が主たる課題であることは他の章と同じである。

第4章の素材は研究報告である。研究論

文の要旨、短報としての実践報告、修士論文の導入部分などを取り上げた。

以上の4分野について、文章の吟味やリバイズを課すタスクを提供した。最終章の第5章では、口語と文章語の違いや、要約の技法についての基礎知識を獲得するための練習を提供した。

本教材は、指導者が存在する研修活動、ピアによる相互研鑽が主軸となるグループ学習、および、個人の自習にも利用することができる。

(4) 断続的・集中的研修の方法が認識された：研究期間中に4度の断続的研修（例：一度に90分の活動2コマを断続的に3回）と、2度の集中的研修（例：1日に4コマあるいは2日連続して4-5コマ）を行い、それぞれの実施に適した学習活動配分の方法が認識された。一週間以上の間隔をおいた3回およびそれ以上のセッションを行うことが可能な場合には、導入としての意識化（主として講義形式）、他者による素材を用いたりバイズの活動（主としてペアまたはグループによる活動）、自分の文章の推敲活動を行うことが望ましい。時間が限られている場合には、3番目の活動を省略し、意識化と他者の作成物の集団検討を行うことが適切であろう。一回限りの講義で行なう場合には、導入が主体となるが、素材としては、看護や医療以外の内容を持つ素材を取り上げることが望ましい。看護関連素材では、表現よりも内容そのものの検討に注意が傾く危険があるからである。

(1)、(2)、(4)の成果については、研究論文や学会講演等を通して広く公表するとともに、(3)の教材の内容に反映させた。(3)は、最終年度に科学研究費補助金を用いて冊子の形にまとめた。多忙な業務の間を縫って行なわれる研修で利用しやすいように、切り離して使用できる片面印刷の教材とした。印刷した冊子は、医療関係の諸機関および文章作成指導の方法開発に関心を抱いている看護職者や教育関係者等に提供した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

因京子・森山ますみ「外国人看護師の職場における日本語学習 今日、そして明日」『専門日本語教育研究』第17号、17-22、2015年12月

〔学会発表〕(計3件)

因京子「直感を補う納得に至る学習方法を求めて」国立台中科技大学日本語教育特別講演、国立台中科技大学、台中市、中華民國、2016年2月22日

因京子「通る研究報告を書く」東京医療保健大学大学院第5回看護マネジメント研究会講

演、東京医療保健大学五反田キャンパス、
2017年3月4日
因京子「社会文化技能の獲得支援への挑戦
発信中心からの回帰」第19回東アジア日本
語・日本文化フォーラム特別講演、東アジア
日本語日本文化学会、仁川市、大韓民国、2018
年3月17日

〔図書〕(計2件)

因京子・アブドゥハン恭子・森山ますみ・松
村瑞子『看護師のためのライティング練習』
日本赤十字九州国際看護大学刊、2018年3
月

因京子「現職看護師のライティング技能向上
支援の試み」村岡・鎌田・仁科(編)『大学
と社会をつなぐライティング教育』11章とし
て2018年にくろしお出版から刊行予定

6. 研究組織

(1) 研究代表者

因京子 (CHINAMI Kyoko) 日本赤十字
九州国際看護大学看護学部教授
研究者番号：60217239

(2) 研究分担者

森山ますみ (MORIYAMA Masumi) 国
際医療福祉大学成田看護学部准教授
研究者番号：90565722

松村瑞子 (MATSUMURA Yoshiko) 九
州大学言語文化研究院教授
研究者番号：80156463

力武由美 (RIKITAKE Yumi) 日本赤十
字九州国際看護大学看護学部准教授
研究者番号：70514082

引用文献：

1. 村岡貴子・因京子・仁科喜久子『論文作
成のための文章力向上プログラム：アカデミ
ック・ライティングの核心をつかむ』大阪大
学出版会、本編1-175、解説1-75、初版第
1刷2013年3月、第2刷2013年10月
2. 因京子・アブドゥハン恭子・森山ますみ・
松村瑞子『看護師のためのライティング練
習』日本赤十字九州国際看護大学、1-147、
2018年3月